

第2回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名..... 第2回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議.....
- 2 日 時..... 令和2年5月27日..... 午後2時から 午後3時39分まで
- 3 会 場..... 安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 307.....
- 4 出席者..... 宮田弘康委員(会長)、白澤勇一委員(副会長)、中澤美穂委員、降旗治喜委員、  
中村 梢委員、川崎克之委員、松元 久委員、鶴飼博将委員、加集安行委員、  
米澤章雄委員、丸山慎哉委員.....
- 5 担当課出席者..... 商工観光部 鎌崎部長、観光交流促進課 大竹課長、下里係長、由井係長、古畑
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人..... 2人..... 記者..... 0人
- 8 会議概要作成年月日..... 令和2年6月3日

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議(取組評価)
- 4 その他
- 5 閉会

【協議内容】

会長 観光振興ビジョン評価項目について、案件ごとに精査をしていくことでよいか。

(異議なし)

会長 評価にあたって、観光と直接的に関係しないものは評価をせず除外していきたいがどうか。

委員 観光から外れたものを除外すると観光として成り立たなくなる。連携が必要。

委員 ビジョンのコンセプトは安曇野暮らしツーリズム。安曇野らしい暮らし、他の地域の人に誇れるような安曇野をつくる、それ自体が観光資源になっていくと思うので、ストレートに誘客につながるものとして除外するのはいかがか。

会長 観光振興ビジョンとして、観光交流促進課が直接的に主幹として携わっていないものについてこの場で評価をするのはいかがかと思う。

委員 国や県と違い、現場直結組織である市町村が縦割りと言ったら何もできなくなる。観光の部署で対処できないのであれば担当の課へ伝えていくべき。

委員 現ビジョン策定の際、出されたコンセプトを具現化することについて「安曇野暮らしツーリズム協会」を作り、役所内も市民も含めた横断的な組織として推進していくことが提案されていながら結成されていない。したがって観光課が所管する事業のみ評価しようという話になってしまう。前提となる部分の話を整理して課題とし、その上でブレイクダウンした項目については評価することが本質。観光課所管でなければ評価できないということはない。観光課がすべてのコントロールタワーとなって他セクションを含め推進していくというのが筋。「観光の立場から考えれば」ということで評価が必要。でなければ発展性もない。

委員 観光振興に特化した評価をするということになると専門的な知識も必要になる。評価以外に「他部門や専門家の意見を聞く」という項目を入れることも場合によっては必要だと思うがどうか。

委員 多岐にわたるためか目的が見えにくい。観光はそこでしか味わえないものを求めて行く。山や水などここだけの、お金を払ってでもと思えるような目的となる資源を絞ったほうがわかりやすい。

委員 やってきたことは財産。地域の自然すべての財産、意見の財産として評価すべき。その上で絞りこめるものがあればいい。

会長 それでは、すべての案件について評価することとして皆さんのお考えを伺いたい。

## 協 議 事 項 等

以下、項目ごとに事務局が説明し、各委員が評価を行う。  
評価についての意見は下記のとおり。

### (1) 安曇野暮らしをまもる ～自然との共生～

#### - 1 自然資源の保全

- ・地下水資源の関係ではデータを施策にどう結び付けているかが不明。大学との連携などを取り入れデータの活用を。
- ・一般市民に周知されていない。
- ・空いている田に水を張るなどのアイデア。アイデアを取り入れた人が損をしない取り組みを。

#### - 2 自然資源の活用

- ・登山道維持補修は費用が少なすぎるのでは。
- ・山小屋側での登山道維持管理にも多額の費用がかかっている。増額してほしい希望もあるが、経費に疑問を感じる市民や登山者がいれば、市と連携し情報開示も必要と考える。
- ・登山者用駐車場については直接収益があがるというものではないが、山岳観光振興のためにはなくてはならない。
- ・公共交通との連携が必要。自家用車でなくてはいけないということはない。地元の生活にも影響してくるので、それらを含めた検討が必要。
- ・繁忙期には2次交通の充実を。
- ・(マリーゴールド) 自然景観が売りの安曇野で人工的なものは極力避けたほうがいいのでは。
- ・ずっと高速道路を走ってきてみると、インターをおりて花があるのはきれいだと感じる。
- ・(マリーゴールド) 以前は違和感も覚えたが、現在は千人以上が参加している事業。自分たちの住む地域を良くしたい、良く見せたいという思いの事業は評価をしたい。
- ・何のために誰がやっているかということを観光で来た方にも知っていただければより良い。

#### - 3 自然環境への配慮

- ・合戦小屋トイレの利用者はどれくらいか。今後もエコトイレ設置があり得るとすれば、受益者のことを考え、先につくるべきところがあるのでは。
- ・環境面に配慮されているトイレということなので評価できる。

《事務局より登山者数、以前のトイレ形態等の補足説明あり》

### (2) 安曇野暮らしをそだてる ～農のある暮らしの再生と食の活用～

#### - 1 「農」や「里山」のある暮らしの維持・継承

- ・どのように観光振興につながるかが見えてこない。専門分野のため評価が難しい。

#### - 2 地産地消の推進

- ・農家民泊は別に安曇野でやらなくてもいいのでは。あえてやる必要もないのではないか。

### (3) 安曇野暮らしをつたえる ～歴史・文化、芸術の伝承・活用～

#### - 1 歴史、伝統の継承・活用

- ・(廃線敷活用) 他のところにもあるので、あえて安曇野で力をいれなくてもいい。
- ・(屋敷林) 見る側からすれば良いと思うが、住む側は切してほしいという思いもある。
- ・砺波平野は屋敷林で印象ができていますが安曇野では屋敷林という言葉はすぐわれないと思う。
- ・砺波の散居村をイメージすると確かに違う。安曇野の屋敷林は歴史的な背景も違い、集落ごとに張りめぐらされ生活を守る役割を昔から果たしている。景観としても水田のなかに屋敷林が点在する安曇野らしい風景を維持している。

宮田会長 予定時刻となったため本日はここまでとし、次回会議で続きの協議を行うことでよいか。  
(異議なし)

《事務局より取り組み事例2件(マリーゴールド植栽/合戦小屋エコトイレ)について補足説明》  
《協議終了》

会議概要は、原則として公開します。

会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。